



**院長**

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ  
 1991年富山医科薬科大学医学部卒  
 1996年同医学部大学院卒  
 2014年国立病院機構北陸病院精神科部長  
 2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。  
 日本司法精神医学会理事。



**診療科**

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症  
    専門外来
- ・ こころのリスク外来

**病床数  
175床**

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

**病院理念** この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

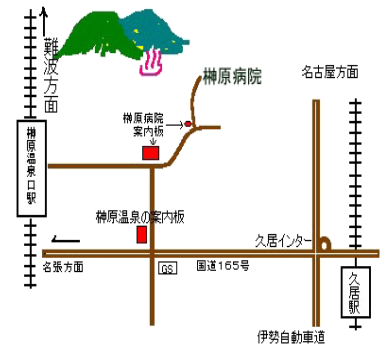
**お薬手帳をうまく利用していますか？**

薬剤科 間瀬広樹

「お薬手帳」は、日本が誇るシステムです。薬の飲み合わせのチェックや副作用の防止のため、服薬履歴やアレルギーなど、医師や薬剤師が必要な情報を記載する手のひらサイズの手帳で、活用されている方も多いと思います。いつも診察を受けている先生以外に、急に診察を受ける場合でも、お薬手帳を見せれば、今飲んでる薬がわかることがあります。また、万が一、救急車で運ばれていて意識がない状況でも、お薬手帳があれば飲んでる薬や病気の推測ができたり、いつもかかっている病院などを知ることができるといったメリットがあります。

他の先進国では、日本のように、自由に病院や診療所に受診することができない国が多いので、「お薬手帳」と言われるものはなく、日本の「お薬手帳」に記載されているような自分自身が今飲んでる、もしくは過去に飲んでた薬の情報は、病院や保険会社のネットワーク上などで管理されています。

「お薬手帳」は、シールを貼ってもらうだけでなく、うまく利用することが重要です。例えば、日記のように、この薬を飲んで、「調子が良くなった」や、「胃が痛くなった」などのメモを自分の「お薬手帳」に記載することで、自分自身でも積極的に治療に参加することもできます。先生に受診する前に記載すれば、先生や薬剤師に質問したいリストのようなものもできたりします。マイミニカルテのつもりで利用してみましょう。ただ、「お薬手帳」はかさばってしまうこともあるので、定期的に携帯電話やスマートフォンで「お薬手帳」の薬の内容が記載されているところを写真で撮っておくとさらに便利です。実際、東日本大震災の際は、「お薬手帳」を持ち出せなかったり、流されてしまった場合でも、携帯電話などにあった写真で飲んでた薬がわかった方も多くおられました。自分自身でバックアップのつもりで撮っておくと、さらにうまく利用できます。今後は、「電子お薬手帳」も普及していくので、お薬とお薬手帳、どちらともうまく付き合っていければと思います。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス  
 (車庫前行き) 約30分  
 自動車/ 久居インターより約20分  
 マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



## 地域医療連携室だより

### 〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

## ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和4年7月までに全症例は132例となりました。新規導入は6月1例、7月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



## 認知症医療、こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。



### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

## デイ・ケア案内

デイケア室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ショートケアのみを実施しています。時間は月、火、水、金の午前9:30から午後12:30までと、水曜日の午後12:50から15:30までです。生活リズムを整えたい、気分転換したい、社会活動参加の準備をしたい、コミュニケーションの練習をしたい等、様々な目的でご利用いただいています。体育館でのスポーツやヨガ、一人でのカラオケ、アート、手芸、園芸、音楽鑑賞、クイズ、脳トレ、こころの勉強等のプログラムを用意しています。プログラム表は外来や、病院のホームページにあります。心身の健康と、感染予防と、熱中症予防、これらが両立するように様々な取り組みを行っています。

みなさまと、心地よい時間を一緒に過ごしたいと思い、デイケア室でお待ちしています。



コスモスが、もう咲きました。



ひまわりも大きく、かわいく咲いています。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



## 栄養コラム



### 免疫力をつけるには

2020年初めごろから出てきた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息がなかなか見えなかったのですが、今年に入り世界ではマスク着用等の規制を緩めつつ経過しています。しかし、現在も日本では厳しい規制をしています。

日頃の対策として、やはり一番は手洗い・マスク・密にならないように心がけることを言われています（熱中症予防で屋外・屋内/子どものマスクの着用を限定的にしています）。この他には、十分な睡眠時間とバランスのとれた食事であると言われていています。「新・健康生活のススム」として厚生労働省のHPには感染予防対策が記載されています。おうち時間が多くなることで、食事の内容や生活リズムの見直しを含む6つのススムがあります。

主食・主菜・副菜をそろえて偏りなく食べることで対策をしましょう。